

診療担当医表 平成31年4月現在

		2診	3診	4診	5診	眼科
月	午前	竹本 範彦	藤永 泰宏	山下 雅樹	休診	山下 千恵
	午後	竹本 範彦	江川 徹	山下 雅樹	休診	山下 千恵
火	午前	竹本 範彦	門元 俊樹 第2・4のみ	山下 雅樹	山本 さくら	山下 千恵
	午後	竹本 範彦	門元 俊樹 第1・3・5のみ	休診	休診	山下 千恵
水	午前	竹本 範彦	藤永 泰宏	山下 雅樹	休診	山下 千恵
	午後	竹本 範彦	江川 徹	山下 雅樹 15:00～ スポーツ外来	中嶋 均	山下 千恵
木	午前	竹本 範彦	江川 徹	山下 雅樹 第1・2・4・5 のみ	山本 さくら	山下 千恵 第1・2・4・5 のみ
	午後	中嶋 均	藤永 泰宏	休診	休診	休診
金	午前	竹本 範彦	藤永 泰宏	山下 雅樹	橋本 大輔	山下 千恵
	午後	中嶋 均 16時まで	竹田 修司	山下 雅樹	橋本 大輔	山下 千恵
土	午前	竹本 範彦 第1・3・5のみ	東邦大学医師 第1・3のみ	山下 雅樹 第1・3・5のみ	休診	山下 千恵 第1・3・5のみ

循環器内科

竹本 範彦・藤永 泰宏・竹田 修司

内科

門元 俊樹・山本 さくら
橋本 大輔・中嶋 均

消化器内科

江川 徹

総合内科

東邦大学医師

呼吸器内科

江口 誠一

整形外科

山下 雅樹

眼科

山下 千恵

■診療時間

午前9時～午後5時30分

土曜日 午前中

■休診

第2・4土曜日

日曜日・祭日（急患はこの限りではありません）

地域住民の健康の増進を図り、信頼される病院を目指し地域医療に貢献いたします

- 竹本病院 ご案内



詳しい情報については、ホームページでご覧下さい。

医療法人創治 竹本病院

最佳实践

～ 春のニューフェイス紹介 ～

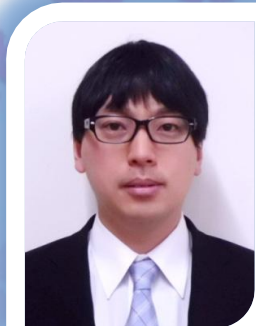
私たちは**看護スタッフ**です！皆さんの側に寄り添い、安心できる医療を提供します！！



東 由莉香
看護部
正看護師



板山 郁未
看護部
正看護師



武田 光生
看護部
准看護師

私たちは**リハビリスタッフ**です！皆さんの為に心をこめてがんばります！！



矢野 花苗
リハビリテーション部
理学療法士



岡村 海生
リハビリテーション部
理学療法士



中石 未来
リハビリテーション部
言語聴覚士

私は**管理栄養士**です！皆さんが元気になれる献立を提供させていただきます！



友永 ななせ
栄養科
管理栄養士

スタッフ募集中

募集職種
看護師・作業療法士
薬剤師・臨床検査技師



医療法人創治 竹本病院

ワークライフバランス

当院では教育システム、育児支援の充実、多様な勤務形態を導入して、働きやすい職場作りを目指し、看護ケアの質向上へ努めるよう取り組んでいます。

充実した福利厚生

特別休暇制度有り。
結婚しても働きやすい環境です。
(香託託児所有り)
長期勤務者には年1度ハワイ研修もあります。

自然豊かな西南地域

当院は高知県西南部の四万十川に面しており、周辺にはサーフィンや釣りなどが楽しめるスポットが数々ある為、休日など利用してリフレッシュできます。

病院見学随時募集中



竹本病院陸上部!!

幡多地区駅伝大会



今年も2月から3月にかけて竹本病院陸上部として、幡多地区の駅伝大会に参加させていただきました。1月中旬に陸上部内で選考大会を行い、その中で選出された選手が素晴らしい結果を出してくれました。あしずり駅伝大会では、昨年度よりレベルアップした出場チームの中で、30チーム中13位と昨年の11位には及ばなかったものの、タイム的には昨年より約2分も短縮し満足のいく結果でした。また四国のみち駅伝(黒潮町)では、沿道からの温かい応援を頂き10チーム中5位と好成績で終えることができました。今年の結果に満足せず来年も更なる飛躍を目指して頑張りたいと思います。



新よもやま話

やました まさきの



皆様、山下整形外科を廃院し、こちらでお世話になることになりました山下です。こちらでは、『新よもやま話』と題して、よもやま話では、あまり書かなかった随筆を取り入れてゆこうと思います。少しでも、大野内科の『ほっと』に近づけるようにしたいと思います。

まずは、背骨から、お話ししましょう。背骨は、頸椎7個、胸椎12個、腰椎5個、仙椎、尾骨で構成されます。そして、身体の重心は、おへそあたりにあります。しりもちをつくと、その重心に力が集中します。骨粗鬆症を有している方が、しりもちをつくと、この部位に圧迫骨折を生じるのは、重力が集中しやすいからです。つまり胸腰椎移行部というところに発生します。痛み場所は、骨折部位より下方に生じやすく、痛みが強く、立位が困難なときは、ある程度の期間入院が必要かもしれません。

この時に、硬性コルセットか、軟性コルセットかは、いまだにはっきりした見解がありませんが、硬性のほうが安定感があるように思います。いまだに装着簡単で、固定性の強い装具の開発は遅れているように思います。膝、足首の新しいサポーターの開発も待たれます。

腰椎椎間板ヘルニアは、今や、『ヘルニア』として、一般の方々でも通用します。最近、このヘルニアを溶かす薬が承認させましたが、実用化までは、もう少し時間がかかるようです。私の出身の徳島大学では、局所麻酔による内視鏡を用いてのヘルニア摘出術が行われています。早い方では、手術当日でも帰宅することができます。最近の手術の進歩には驚きます。

さらに、最近の話題では、PRP療法といって、自分の血液を採取、その後処理を加えて、血小板の多い成分の血液を関節に注入する技術が開発され、近々、高知県でも承認されるようです。情報が入り次第、皆様にお伝えします。

少し、言い忘れていましたが、キリンの頸椎はいくつでしょうか。そう、7個です。少し血圧が高いですが、それを調整する血管の内の弁のような装置が備わっているようです。

さて、この街では、トンボ公園が有名ですが、歌でよく歌われるアカトンボという名前は、学術的には存在しません。アキアカネです。私は幼い頃より昆虫が好きでした。通なところでは、蝶々の数え方は？ 一匹？ いいえ、一頭です。そして、よく耳にする遺伝子の研究でも、ショウジョウバエの遺伝子の研究が発端となりました。

季節の折に触れ、昆虫の話題も取り入れてゆきたいと思います。

この街に来て早25年です。平成15年より、高知県整形外科医会 通称『三木会』の役員を勤めさせていただいております。高知県で整形外科を標榜する医師は全員、この会に入っています。何人いると思います。約190名が在籍しています。主には、先生方への新しい知識の源としての講演会の段取りが主な業務ですが、10月には、『骨と関節の日』の行事としての、医療相談、骨量測定、市民公開講座を行っています。私もほぼ毎年参加しています。時間に余裕があれば、ミニ講演も行います。

講演の趣旨は、『笑って、棺桶まで歩く』です。笑うことによって、副交感神経が興奮します。そうすると、血管や、骨が丈夫になります。そして、人間にとって、最も大切なことは、2本足起立および歩行です。人生を楽しむには、骨を丈夫にして、筋肉を鍛えましょう。筋肉は、年齢をとっても、鍛えられます。

今後も、しばらくはこの『新よもやま話』を続けたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

整形外科 科長 山下 雅樹





皆さんこんにちは！竹本病院看護部長を務めさせていただきます竹中茂代です。
今回、ミクロネシアに支援物資を送る事になり、いろいろな体験をさせていただきましたので、ご紹介させていただきます。

～旅のはじまり～

「ミクロネシアの病院へ白衣を送りたいから、準備して」院長から、突然の依頼。

『地域医療に貢献する』という、当院の理念に基づき、院長は日頃よりボランティア精神が旺盛である。
幡多地域に留まらず、世界に向けても <何かお役に立てる事があれば>とよく話されていた。

ミクロネシアの支援も、その延長線上だと理解し、黙々と白衣を準備している時、
誰かが、【ミクロネシアのナースにSやMのサイズが着れるの？そもそもどんな体格？】との疑問が浮かぶ。
ネットで調べたが解らない。（かくして、普通サイズは3Lサイズであった）

すると、院長が一言『具体的に何が欲しいか直接見て、聞いておいでよ。看護部長、ミクロネシアに行っておいでよ！』この、一言が未知の国、ミクロネシア連邦チューク州立病院訪問旅へと繋がるのである。

2019年1月11日から12日にかけて、尾崎高知県知事（以下、尾崎知事）を団長とし、議長を含む高知県議会、
在高知ミクロネシア連邦名誉総領事、JICA及び民間企業の代表者等からなる高知県訪問団にてミクロネシア連邦を訪問すると聞き、民間企業の1人として同行させて頂く運びとなった。

ミクロネシア連邦の首都、パリキールのあるポンペイ空港に着くと、地元の人々が日本の小旗を振って歓迎してくれた。頭に花輪を載せてくれ、貝で作った首飾りをかけてくれた子供たちの笑顔が、今も心に残る。

その日に、大統領府（クリスチャン大統領）、マルセロ州知事、日本大使館の表敬訪問に同行させていただいた。その時、関係者が私のことを、看護師と紹介して下さった際、大統領から「あなただけミクロネシアへ残って下さい」と言われ、皆の笑いを誘った。特に医療、保健関係は立ち遅れており、看護師の人員不足も深刻だと教えて下さった。

翌日、今回の最大の目的である、隣の州、チューク州立病院訪問に向かった（隣の州と言っても、飛行機で2時間、時差が1時間ある）チュークでも全ての工程に、ミクロネシア一等書記官の末永さんが同行下さった。感謝の気持ちが今も消えない。



～ミクロネシアの旅～

翌日は、末永さん（末永さんは、高校生までチュークで育った方である。）の案内で島内をくまなく散策し、地元での暮らしの風景を見ることができた。
空港周辺を過ると、道は舗装されておらず、土むき出しのガタガタ、昨夜降った雨で更に悪路と化していた。道路を泥水がゴウゴウと流れまるで台風のあとのようであった。それでも、道の脇で遊んでいる子供達は、明るい笑顔を見せてくれ手を振ってくれた。



裸足で走り、裸で遊んでいる子供もいる。道のすぐ脇をブタがゆったり歩いている。ゴミが散乱している。
末永さん曰く、「道路整備が進んでいない、それを実行する技術もないのです。援助で、ゴミの収集場も作ったが、うまく稼働していないのです」電気の供給も不安定との事。
そういえば、ホテルでも何度か停電があった。
さて、病院訪問ですが、モリ公使や、末永さんの配慮により、医療保険部長、病院管理責任者と朝食を共にさせていただいた。「ビョウイン」「カンゴフ」「クルマ」などの日本語は今も残ってます。糖尿病が国病であり、死亡1位を占めており、対策が急務であると話して下さった。
病院の駐車場は、泥地で雨の影響でぬかるんでいた。

それでも、玄関を入ると、様々な人が外来周辺で沢山待っていた。薬剤科、検査室、救急室、病棟など順次案内してくれたのは、Nero看護部長さん。お土産の白衣や、シーツマスク等を手渡すと、とても喜んでくれた。

「これら、全てが不足しています。人員不足も深刻、物品不足も深刻ですが、私達ナースは、チュークの人々の健康を守るように、日々頑張っています」との言葉が、力強かった。ミクロネシアも、日本も看護の精神は同じだと感じ、なぜか親近感がわいた。
詰所でトイレをかりた。入ってびっくり、桶に水がたまっていて、洗面器で流してと説明を受ける。ナース資格は何处で？の質問に、皆、グアムかハワイ、パラオで資格を取ります。との返事だった。



四万十に帰ってからも、メールが届く。
特に管理経験のある人、感染対策の出来る人が欲しいとの依頼。
人材派遣は叶わないが、院長の指示により、4月には、支援物資として、白衣、マスク、ガーゼ、シーツなど沢山送らせていただいた。

院長自ら、トラックに物資を積み込まれる様子をミクロネシア大使館にメールで送ったところ、「涙が出る程、うれしいです」と院長に感謝されていた。
3500キロ先の、ミクロネシア・チューク州へ向けて、院長の思いをのせて、サンゴ礁の青い海を渡り、長い船旅を続けているはずである。
無事に入港でき、チューク州立病院で働く皆様のお役に立てる事を心から祈っている。

看護部長 竹中茂代